

Behind The Scenes

# **Sickboy's Hokusai Mural**

Directed by Ken Utsumi

# 目次

1. プロジェクト概要
2. シーン解説
3. スクリプト・翻訳
4. プロジェクト詳細
5. クレジット

# 1.プロジェクト概要

## クライアント

大阪・Hokusai Stay バケーションレンタル

## 制作物

壁画の制作過程と完成作品のプロモーションビデオ(PV)

## ロケーション

大阪市福島区  
民泊 Hokusai Stay

## スケジュール

プリプロダクション11月初旬開始、撮影2024年12月1日～7日、編集2025年1月21日完了

## チーム

アーティスト・主演 Sickboy  
監督・撮影・編集 Ken Utsumi

## 2. シーン解説

### オープニング

冒頭数秒に、最新テクノロジーとクリエイティビティが融合し、「神は細部に宿る」を体現し、単なる物語の始まりの合図以上の意味を持ちます。

#### [00:01] 電車と遮断機の音フェードイン&タイトル

黒い背景に、電車と遮断機の音が徐々に聞こえてきて、中央にタイトルが映し出される

映像より先に音をフェードインさせる演出は、視聴者の注意を惹きつける古典的な編集技法です。電車と踏切の音は、高性能マイクで収録後、専用ソフトでノイズを抑えています。

『Lost In Train Station』のタイトルは、壁画を描きに来日した英国人アーティストの、映画『Lost in Translation』のオマージュです。

タイトルロゴは、デザイナーが同映画のタイトルを再現するミニマルなタイポグラフィ（文字の配置や書体、サイズを調整するデザイン手法）を施しました。

#### [00:03] ワイプ&マッチカットトランジション

黒い画面が中央から上下に開くにつれ、電車が右から左へ走る映像が見えてくる

ブラックアウト（完全に暗転）状態から、踏切を渡る電車が切り開くように黒い帯が上下にワイプで開き、動線と形状を重ねたマッチカットにより、滑らかな連続性を生んでいます。

視線を中央に誘導しながら、劇場の幕開けのような期待感と、ありふれた電車風景に特別感を高める演出です。

#### [00:04] レターボックス（上下の黒い帯）オープン

上下に黒い帯が固定され、アスペクト比（画面の縦横比率）が映画と同じ16:9に切り替わる

この帯は単なる装飾だけではなく、後に続くシーンで、アートを隠さず文字が背景と被らず可読性を高める字幕用スペースとして機能します。字幕表示の有無や他の言語の追加もできます。

物語の舞台を設え、映像体験を豊かにする布石です。

## [00:05] BGMフェードイン&タイトルロゴフェードアウト

BGMが徐々に聞こえてきて、電車の通過に合わせてタイトルロゴが一文字ずつ消え、通過した向こうにアーティストの姿が見える

表題曲のBGMは、アーティストの台詞を妨げないように、ヴォーカルはワンフレーズのためのミニマルなインストゥルメンタルです。複数のAIモデルを組み合わせることで作曲し、音楽制作ソフトで編曲しました。

タイトルロゴは、電車の通過と同期し、あたかも風圧で吹き消すように、1/24秒単位で編集しています。

フレームレート（一秒間の画像の枚数）を、24fpsで映画の雰囲気を出し出し、4K・60fps素材で編集の柔軟性を確保しました。

電車通過後に見えるアーティストの姿は、知ると思わずリピートしたくなる遊び心ある仕掛けです。

## アーティストインタビュー

タクシーの固定カメラと街歩きの複数ショットのシーンを交互に反復するモンタージュを背景にインタビューをしています。濃密かつ魅力的に時間の経過や物語の転換を表現する技法です。ビデオグラファーが友人として7日間ともに過ごして素の様子を収録しました。

## [00:07] テキストオーバーレイ

上空から撮影した大阪の夜景をバックに「Sickboy Is An Artist」とテキストが表示される

テキストとアニメーションも『Lost in Translation』からのオマージュです。夜景を背景にすることでテキストの視認性も高め、昼と夜の対比で場面の切り替えをわかりやすくしています。

## [00:09] タクシークローズアップ&ボケ

アーティストがタクシーに乗り、車窓を見つめる

高感度カメラ（暗所でもノイズを抑える）と明るい単焦点レンズで、絞りを開いて被写界深度（ピントが合う範囲）を浅くして、窓越しの背景を大きくぼかしています。カラーグレーディングで色合いを調整して、シネマティックな雰囲気を出しています。

## [00:10] インタビュー

アーティストのインタビューが始まる

インタビューアーの質問は取り除くことで、アーティストの語りを強調すると同時に時間を短縮しています。音声はピンマイクで収録し、不要なノイズを抑えつつ適度な環境音を残すことで、臨場感を出しています。

## [00:11] 街歩きカットモンタージュ

アーティストが街を散策する

複数のアングルからフルショットやミディアムショットをテンポよく切り替え、ストーリーの進行を加速させています。

アーティストの顔を出さない制限があるため、首下や後ろ姿を映し、ミステリアスな雰囲気を高めています。

## [00:12] パラレルカット

タクシーと街歩きのシーンを繰り返す

タクシーの車内でじっと座って静かなシーンと、街に出て活発に動くシーンを交互に編集することで、静と動の対比を強調しています。

## [00:14] スマートフォンの画面

アーティストがスマートフォンで商店街を撮影する

背景をぼかし、焦点を合わせたスマートフォンの画面越しに、街の風景を見せる想像力と技術力がなせる表現です。

別撮りのシャッター音でライブ感を高め、シャッター音を合図に次のカットに切り替わります。

## [00:22] フリップ・サウンドデザイン

アーティストが本のページをめくる

前のスマートフォン撮影のシーンと対比を意識し、本のページをめくる音に合わせて次のカットに切り替わります。効果音で臨場感も高めています。

### [00:23] スピン・テキストアニメーション

夜景を背景に本をめくるようにテキストが現れる

前カットのページをめくる動きを引き継ぐように、スピンサイクルのアニメーションでテキストが出現し、連続性を持たせたアクションで滑らかにつなぐ、さりげないマッチカットです。

### [00:47] 歩き姿のマッチカット

店内で買い物カゴを持って歩く姿から夜の道でショッピングバックを持って歩く姿に変わる

同じシルエットで背景と荷物だけが変わる技巧を凝らしたマッチカットで、時間と場所の変化をアーティスティックに演出しています。

### [00:58] タイトルロゴ&フェード・トゥ・ブラック

徐々に黒へ暗転する

夜景をバックに、タイトルロゴを一単語ずつ表示するアニメーションの後、BGMをフェードアウトに合わせて、画面もフェード・トゥ・ブラックトランジション（徐々に黒へ暗転する画面遷移の効果）でチャプターを締めくくります。暗転のインターバルで、次のチャプターの準備をする働きもあります。

## モノクロタイムラプス

監視カメラ、ミラーレス一眼、アクションカメラと複数カメラで撮影した映像を、編集ソフトで補正した後にモノクロに変換した独創的なシークエンスです。アスペクト比の異なる映像を4:3に揃えるため、レターボックス（上下の黒い帯）を暗転の後、ピラーボックス（左右の黒い帯）へ転換し、オープニングの伏線を回収します。

### [01:00] ピラーボックス（左右の黒い帯）

暗転から左右に黒い帯が現れる

アーティストインタビューのシークエンスが終わると音楽も画面もフェードアウトし、一旦、無音、真っ暗にします。そして、音楽が流れ、画面が明るくなり、上下の帯は消え、左右に黒い帯が現れてピラーボックスとなり画面を4:3に変換します。

### [01:01] 監視カメラ

宿の壁画の前でアーティストが監視カメラに映り込む

監視カメラの本来マイナスの特徴である粗い画質とコマ落ちを活かして、相対するシリアスな緊張感と倍速再生によるコミカルな動きが調和したシニールなシーンです。

映像に合わせたリズムカルな音楽を作曲し、タイムラプスのテンポを強調しています。

### [01:04] ライトスweep

サーチライトが左右に動き夜の宿を照らす

事前の夜間撮影で建物は静止し、人もいないため、サーチライトのように照明を左右に振ることで明るさと動きを創っています。

さらにモノクロ処理により、監視カメラの映像とトーンを合わせるだけでなく、陰影を際立たせ、アーティスティックな質感を引き出しています。

### [01:06] ローキーライティング

アーティストの手元をクローズアップする

作業シーンは、アーティストの邪魔をしないように、一定の距離を保ちながら複数の角度で手元を撮影し、編集でダイナミックに魅せています。

隣家や周囲のノイズを隠すため、暗い部分を多くし、陰影を強調する、ローキーライティングという技法でドラマティックに仕上げています。

隣人の会話のような不要な声は除去し、別撮りした作業の効果音と環境音を重ねることで、映像体験を豊かにしています。

### [01:07] ロングショット

壁画を描く宿が遠目から映る

遠くから引きの構図で宿の全体像を映し、空間のスケールや場所の雰囲気伝えていきます。

## [01:08] 立体表現ショット

アーティストがはしごを使う

はしごや2階の窓を様々な角度から撮影して立体感を出し、壁画の高さと作業の大変さを強調しています。

## [01:14] 長時間タイムラプス

アーティストが壁画を描くタイムラプス

屋外の撮影のためアクションカメラを定点設置し、長時間撮影に耐えるバッテリー環境を構築しました。

数日間にわたり連続撮影を行い、静止部分はトリム（不要部分を削除）し、ひとつながりの映像に加工しています。

本作の最長となる30秒間のタイムラプスクリップは、前後のクリップを1秒未満に短縮することで、制作時間の長さや密度を強調しています。

別録りしたアーティスト本人の解説を重ねることで、高揚感を高めています。

## [01:45] オーバーヘッド&多角度ショット

アーティストが壁画を仕上げる

真上からのアングルを含む複数のカットで、アーティストが壁画を描く手元や全身を映しています。昼間や夜間など、さまざまな時間帯に撮影された映像の色味や明るさを補正し、自然に調和させています。

モノクロに変換し、短く区切ったカットをテンポよく連続させることで、制作の最終工程にふさわしいリズムを生み出しています。

## [01:46] 電車の音&フェード・トゥ・ブラック

徐々に暗転する

電車が走る音をフェードアウトしながら、画面が徐々に暗転し、制作パートを締めくくり、次のチャプターの準備をします。

## アート作品紹介

いよいよ完成したアート作品のお披露目です。制作過程はモノクロで表現し色彩を伏せていたのは、完成した作品を見たときのインパクトとサプライズの感動を高めるための仕掛けです。空撮や多彩なカメラワークで完成したアート作品を演出し、ドラマティックなエンディングを迎えます。

### [02:00] 空撮ロングショット

BGMとともに、高所から宿の近隣を捉え壁画に近づく

ドローン飛行禁止区域を克服するため、ウルトラロングスティックとジンバルを用いて遠景から空撮のように近隣を捉えています。リズムを打つミニマルなイントロダクションが聞こえてきて、高揚感を生み出します。

### [02:03] ワイプ&レターボックス（上下の黒い帯）

上下に黒い帯が現れ固定される

オープニングと同様に、画面がブラックアウトした状態から、上下に黒い帯がワイプで開いて固定され、アスペクト比を16:9に転換します。

### [02:08] 壁画全景チルトショット

空から壁画の全景が見えてくる

カメラを上方向から下方向へチルトさせ、空から壁画を真正面から捉える地面の位置まで移動させて、高級感と期待感を演出します。

映像が切り替わるタイミングで曲調が変わり、荘厳なメロディーがアート作品を際立たせます。

そしてピンマイクで録音したアーティストの解説が始まります。

### [02:11] アーティスト解説

壁画の前でアーティストが作品について解説する

作者本人の感情を込めた解説を挟むことで、アートに深みと愛着を育みます。

アーティストは顔を映さない構図が、奇抜なアート作品と合わせて謎めいたアーティストの雰囲気を醸し出しています。

### [02:13] アート作品クローズアップ

作品がクローズアップで映る

アーティストの解説を補足するようにカメラを寄せ、ペイントのディテールや質感を伝えていきます。

### [02:18] インターカット

さらに壁画が見えてくる

空から地面までの壁画全景チルトショットは、軸を固定し、上から下へ流れる一貫した動きで、タイムラインを進め、徐々に明かしていきます。

空から地面に到達する間に、以下の2種類のシーンを繰り返し差し込み、ディテールを強調しています。

アーティスト解説ショットは、異なる角度からフルショットやミディアムショットを用い、視点の変化をもたらしています。

アート作品クローズアップショットは、トラッキングショット（カメラ横や縦に移動する）パンショット（カメラを左右に振る）、ドリーアウト（カメラを後ろに引く）など、様々なカメラワークで作品を引き立てています。

### [03:12] 壁画全景のドリーアウト

壁画の全景から遠ざかっていく

壁画を正面に捉えた状態から徐々に画面を引いていき、やがて建物から離れるような空撮の引きショットへとつなげています。

### [03:19] レターボックス（上下の黒い帯）クローズ

上下の黒い帯が徐々に閉じる

フィナーレでは、BGMの曲調がミニマルなリズムへの転調を合図に、空撮で壁画から遠ざかっていきます。

あたかも劇場の幕が降りるように、上下の黒い帯がワイプで閉じます。オープニングの黒い帯の伏線も回収し、余韻を感じながら幕を下ろします。

## [03:28] クレジット

黒い背景にクレジットが映し出される

レターボックスが完全にクローズしブラックアウトしたタイミングで、BGMがエンディングの曲調に変わるとともに、シンプルな白い文字でクレジットが流れて映像は終了します。

### 3. スクリプト・翻訳

#### 英語原文：

My artist name is Sickboy from UK.

I came to Osaka and straight away I got lost in the train station.

My friend once said to me that going to Japan is the closest you'll get to going to another planet.

Tricky sometimes, but also that's the beauty of it. You're somewhere else.

You need to be experiencing new flavors and new sights and sounds.

This is inspired by a print that was made in 1831 by an artist called Hokusai, and the print is called "The Great Wave".

Essentially, it became one of the most reproduced images in history.

It's up there with the top of them anyway, so I thought it was an interesting concept to try and recreate it in my unmistakable style.

I don't really like to copy artists, but I will use it as a reference, I guess. Especially when it's as old as Hokusai. So, you know, it is a picture of "The Great Wave". Mount Fuji is in the scene, and what I tried to do is... because I use spray paint.

I have the option to do lots of different marks and feelings. So you get freedom with the objects here, and this is more graphic to give the wave a real kind of weight and energy.

You can use darker colors at the bottom, and as it arches over, it becomes lighter, because... if you look at it, I'm not a realist painter.

I don't try to represent objects in a photorealistic way. I try to get the feeling, and that's what I tried to do here.

## 日本語訳：

私はイギリス出身のアーティスト、Sickboyです。  
大阪に着いてすぐに、駅で迷子になりました。

以前、友人が「日本に行くのは、他の惑星に行くようなものだ。」と言っていました。

時には難しいこともありますが、それもまた魅力の一つです。まったく別の場所に身を置くわけですから。

新しい味、景色、音を体験すべきなのです。

これは1831年に葛飾北斎という芸術家が制作した『神奈川沖浪裏』という版画から着想を得ています。この作品は、史上最も複製された絵のひとつとなりました。

いずれにせよ世界的に有名な作品なので、自分の独特なスタイルで再解釈してみるのは興味深いと思いました。

私は他のアーティストをそのまま模倣するのは好みませんが、参考として取り入れることはあります。特に北斎のような古典作品ならなおさらです。

ご存知の通り、これは『神奈川沖浪裏』の絵で、富士山が風景の中に描かれています。

私はスプレーペイントを使うので、多彩な質感や感情を表現できます。

この部分は自由度があり、よりグラフィックに仕上げ、波に真の重量感とエネルギーを与えたかったのです。

波の下部には暗い色を用い、弧を描き、波頭へ向かうにつれて色味を明るくしています。

ご覧の通り、私は写実画家ではありません。

私は対象をリアルな写真のように描くことはしません。

私は感情を捉えたいのです。それが、ここで目指したことです。

## 4. プロジェクト詳細

### コンセプト

アートのある人生の喜びや楽しみ、幸せを伝える  
壁画の制作過程の紹介やアート作品について解説する動画を制作し、アートの価値を最大化する  
壁画制作のプロセスを映像で記録し、その映像を「もう一つのアート作品」に昇華する

### スケジュール

プリプロダクション（企画、脚本、ロケハン、計画）  
2024年11月初旬開始

プロダクション（撮影、録音）  
2024年12月1日～7日

ポストプロダクション（編集、カラーグレーディング、エフェクト、サウンドデザイン）  
2025年1月21日完了

### ロケーション

民泊 Hokusai Stay  
福島駅  
福島聖天通商店街  
コーナン  
大阪市内タクシー

## 機材

Sony a7S III (ミラーレス一眼カメラ)

Sony G Master FE 14mm f/1.8 GM、FE 24mm f/1.4 GM、FE 50mm f/1.4 GM (G Master シリーズの超広角単焦点、広角単焦点、標準単焦点)

Sony ECM-B10 (3指向性高性能ショットガンマイク)

Insta360 X4 (360度カメラ)

Insta360 Go4 (ウェアラブルカメラ)

Flow 360 (ジンバル)

DJI Osmo Pocket 3 (ジンバルカメラ)

DJI Mini 4 Pro (ドローン)

GoPro HERO9 (アクションカメラ)

Aputure 120d M2 (照明)

Shure MoveMic (マイク)

iPhone 16 Pro Max、iPhone 15 Pro (撮影)

MacBook Pro、iPad Pro (編集)

Apple Pro Display XDR (モニター)

Apple Vision Pro (空間コンピュータ)

Final Cut Pro (動画編集ソフト)

## 5. クレジット

出演 Sickboy

撮影場所 Hokusai Stay

音楽 Ken Suno

'Lost in Train Station'

'Englishman in Osaka'

'Great Wave'

監督 Ken Utsumi

特別謝辞 Akihiro Osaki

提供 Great Stay

壁画 FOREVER

映像制作 U23

# Table of Contents

1. Project Overview
2. Scene Breakdown
3. Script
4. Project Details
5. Credits

# 1. Project Overview

## Client

Hokusai Stay Vacation Rental, Osaka

## Deliverable

Promotional video documenting the creation process and final reveal of the mural

## Location

Fukushima-ku, Osaka  
Hokusai Stay

## Schedule

Pre-production starts in early November 2024  
Filming December 1-7 2024  
Editing completed January 21 2025

## Team

Artist & Cast: Sickboy  
Director, Cinematographer & Editor: Ken Utsumi

## 2. Scene Breakdown

### Opening

In the first seconds, cutting-edge technology merges with creativity to embody the maxim “God is in the details,” signaling more than the start of a story.

#### [00:01] Train and level-crossing sound fade-in & title

On a black screen, the sounds fade in first, grabbing attention. High-quality microphones captured the train and bell; noise was reduced in post. The title “Lost in Train Station” pays homage to the film *Lost in Translation*. The designer recreated its minimalist typography.

#### [00:03] Wipe & match-cut transition

From total blackout, the train slicing through the crossing acts as a moving matte: top and bottom black bands wipe open as the train travels right-to-left. The viewer’s gaze is steered to the center, and the matching motion and geometry create seamless continuity—like a theatre curtain rising, turning an ordinary train shot into something special.

#### [00:04] Letterbox open

Fixed black bars at the top and bottom lock the frame to cinematic 16:9. These bars are not decoration: they serve as a permanent subtitle safe zone that never blocks the artwork, and they can host multilingual captions later. Their early appearance also sets visual grammar for the film, quietly preparing the audience for what follows.

#### [00:05] BGM fade-in & title logo fade-out

A minimal instrumental with a single vocal phrase, composed with multiple AI models and arranged in a DAW, rises as each title letter vanishes in sync with the train at 24 fps. Footage was captured in 4K 60 fps for flexibility. After the train passes, the artist briefly appears as an Easter egg.

## **Artist Interview**

A montage alternates fixed taxi shots with street-walking clips, compressing time and narrative. The videographer lived with the artist for seven days to capture candid moments.

### **[00:07] Text overlay**

“Sickboy Is An Artist” appears over a night aerial of Osaka, mirroring the film homage and clarifying the scene switch from day to night.

### **[00:09] Taxi close-up with bokeh**

A high-sensitivity camera and fast prime lens with wide aperture blur the window background, then color grading refines the image for a cinematic feel.

### **[00:10] Interview begins**

Omitting the interviewer’s voice shortens runtime and spotlights the artist. A lav mic recorded clear dialogue; ambient sound is left tastefully for presence.

### **[00:11] Street-walking montage**

Rapid cuts between full shots and medium shots accelerate story flow. The artist’s face is hidden—shown only from the neck down or from behind—to maintain a mysterious atmosphere.

### **[00:12] Parallel cut**

Quiet taxi interiors alternate with active street scenes to emphasize stillness versus motion.

### **[00:14] Smartphone screen**

Blurring the background and focusing on the smartphone screen to show the street scene through the device is an expression of imaginative and technical prowess.

### **[00:22] Flip sound design**

The sound of page turns is matched to the edit point, and additional sound effects are layered to enhance realism.

### **[00:23] Spin text animation**

Against a night-city background, text appears with a spin animation that aligns with the previous page-turn motion, creating a seamless match cut.

### **[00:47] Walking match-cut**

A silhouette carrying a shopping basket indoors cuts to the same silhouette holding a shopping bag at night on the street, artistically indicating the shift in time and place.

### **[00:58] Title logo & fade-to-black**

After the title reappears word by word over city lights, both audio and video fade to black to close the chapter and cue the next.

## **Monochrome Timelapse**

A mixed sequence from surveillance, mirrorless, and action cameras is graded, equalized to 4:3, then converted to monochrome. Letterbox bars morph to pillarbox bars, tying back to the opening foreshadowing.

### **[01:00] Pillarbox reveal**

Silence and darkness reset the mood. Music resumes; top and bottom bars vanish, side bars appear, converting to 4:3.

### **[01:01] Surveillance camera**

The scene is deliberately surreal: the low-resolution, dropped-frame aesthetic of surveillance footage creates serious tension that is undercut by comical, accelerated motion. Music was composed to match the timelapse's rhythm.

### **[01:04] Light sweep**

With the area empty at night, a sweeping light mimics a searchlight, creating movement and contrast. Monochrome processing unifies tone and emphasizes shadows.

### **[01:06] Low-key lighting close-up**

Hands are shot from multiple angles without disturbing the artist. Using low-key lighting to emphasize shadows conceals neighbors and adds drama. Foley replaces unwanted voices.

### **[01:07] Long shot**

A distant, pulled-back frame shows the entire guesthouse and its context, conveying both scale and the ambience of place.

### **[01:08] Three-dimensional shot**

Ladder and second-floor window angles highlight height and effort.

### **[01:14] Extended timelapse**

An action camera on a fixed rig recorded for days; trims remove static gaps. The longest 30-second clip is bracketed by sub-one-second cuts, underscoring duration and intensity while voice-over boosts excitement.

### **[01:45] Overhead and multi-angle shots**

Multiple cuts, including top-down, show hands and full body across day and night; graded for consistency. Short monochrome cuts create a fitting rhythm for the finale of production.

## **[01:46] Train sound & fade-to-black**

Train noise fades while the screen darkens, closing the making-of chapter.

## **Artwork Reveal**

The finished mural finally appears in full color after a monochrome buildup, delivering surprise and impact. Drone-like moves and varied camera work usher in a dramatic ending.

## **[02:00] Aerial-style long shot**

With a very long pole and gimbal (due to drone restrictions) the camera glides toward the mural while a minimal rhythmic intro heightens anticipation.

## **[02:03] Wipe & letterbox**

Bars wipe open and lock, returning to 16:9 as in the opening.

## **[02:08] Full-view tilt shot**

A tilted move from sky to ground presents the mural head-on. A grand melody swells; the lav-recorded artist commentary begins.

## **[02:11] Artist commentary**

Standing before the mural, the artist explains the work, adding depth while remaining unseen to keep mystery.

## **[02:13] Close-ups**

The camera moves in to reveal paint texture and detail.

### **[02:18] Intercut**

While the tilt continues, two scenes repeat: alternate full and medium artist shots from different angles, and dynamic tracking, panning, and dolly-out shots of the artwork, emphasizing detail.

### **[03:12] Full-view dolly-out**

The camera pulls back from the mural, transitioning into an aerial-style wide retreat.

### **[03:19] Letterbox close**

As the score shifts back to minimal rhythm, the top and bottom bars wipe shut like a closing curtain, echoing the opening.

### **[03:28] Credits**

On full black, simple white text scrolls as the ending music plays.

# Script and Translation Concept

Original English Script:

My artist name is Sickboy from UK.

I came to Osaka and straight away I got lost in the train station.

My friend once said to me that going to Japan is the closest you'll get to going to another planet.

Tricky sometimes, but also that's the beauty of it. You're somewhere else. You need to be experiencing new flavors and new sights and sounds.

This is inspired by a print that was made in 1831 by an artist called Hokusai, and the print is called "The Great Wave."

Essentially, it became one of the most reproduced images in history.

It's up there with the top of them anyway, so I thought it was an interesting concept to try and recreate it in my unmistakable style.

I don't really like to copy artists, but I will use it as a reference, I guess. Especially when it's as old as Hokusai. So, you know, it is a picture of "The Great Wave." Mount Fuji is in the scene, and what I tried to do is... because I use spray paint.

I have the option to do lots of different marks and feelings. So you get freedom with the objects here, and this is more graphic to give the wave a real kind of weight and energy. You can use darker colors at the bottom, and as it arches over, it becomes lighter, because... if you look at it, I'm not a realist painter.

I don't try to represent objects in a photorealistic way. I try to get the feeling, and that's what I tried to do here.

# Project Details

## Concept

Share the joy and happiness of a life enriched by art

Maximize the value of the mural through a video that covers both process and artwork explanation

Elevate the documentation itself into a standalone art piece

## Schedule

Pre-production (planning, scripting, scouting): starts in early November 2024

Production (filming, recording): December 1-7 2024

Post-production (editing, grading, effects, sound): completed January 21 2025

## Locations

Hokusai Stay guesthouse

Fukushima Station

Fukushima Shotengai shopping street

Konan hardware store

Osaka city taxis

## Equipment

Sony a7S III mirrorless camera

Sony G Master FE 14 mm f/1.8 GM, FE 24 mm f/1.4 GM, FE 50 mm f/1.4 GM primes

Sony ECM-B10 three-pattern shotgun mic

Insta360 X4 360-camera

Insta360 Go 4 wearable camera

Flow 360 gimbal

DJI Osmo Pocket 3 gimbal camera

DJI Mini 4 Pro drone

GoPro HERO9 action camera

Aputure 120d M2 lights

Shure MoveMic wireless mics

iPhone 16 Pro Max, iPhone 15 Pro for supplementary footage

MacBook Pro, iPad Pro for editing

Apple Pro Display XDR monitor

Apple Vision Pro spatial computer

Final Cut Pro editing software

# Credits

Starring Sickboy

Location Hokusai Stay

Music Ken Suno

"Lost in Train Station"

"Englishman in Osaka"

"Great Wave"

Director Ken Utsumi

Special Thanks Akihiro Osaki

Presented by Great Stay

Mural by FOREVER

Produced by U23